



筑波大学メールマガジン“ペデじゃーなる” 2012年春号

—OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1 今昔ペデ南下旅

— 亀ちゃんが、ペデ沿いの景色をお届けする連載第四弾！今回は3学エリアの美味しいものをご紹介します♪

2 大学入学最初の宴、新入生歓迎祭！

— 今年もやりました新歓祭！新しく交友関係を持つのは楽しいけれど大変でもあります。

3 新入生の大学院生の生活

— 編集員中唯一の大学院生の研究室を紹介します。環境の変化、気持ちの変化を抱えて新生活を楽しみ乗り切ります！

4 ゆるっと、つくば～癒され手帖～

— 連載第四弾！今回もゆるっと、つくばの春をご紹介します。春眠暁を覚えずとはよく言ったものです…

5 激変！新生活ビフォー→アフター

— すっかり枯れている大学3年生ですが、フレッシュで頑張っている時期もあったのです。

6 ペデあぶろーど

— 編集員による海外レポート第二弾！今回は3月のモスクワの様子をお届けいたします！

1 今昔ペデ南下旅



ついに足を踏み入れてしまいました…。3学にやってきたのです。やはり、いつもいる2学とは雰囲気全然違いますね。人が多いせいか、2学の倍くらいの慌たらしさを感じます。慣れない3学でキョロキョロと辺りを見渡しながらか歩く私。3学は校舎の数がとても多く、3A棟から3L棟まであります。校舎内を少し歩いただけでも迷ってしまいそう。このままだと外に出られなくなる…！ということでやってきたのは、1番の目印、粉クリです。

3学の粉クリは、パンだけでなくパスタやドリンク、朝のパンバイキングとメニューも豊富です。座席数も多く、お昼休みにはのんびりとランチを楽しむ学生も見られます。店内にはオルゴール調の音楽が流れていて、2学の粉クリとはまた違う、落ち着いた雰囲気が感じられます。粉クリのすぐそばにあるのは名店街。うどんやそば、カレー、ラーメン、定食、とこちらも種類豊富です。私が見た感じだと男子が多い様子。がつつり食べられる美味しいご飯を求めてやってくるのでしょうか。美味しいご飯と言えば、3食を忘れてはいけません。筑波大の学食の中で1番美味しいと定評がある中、一番人気は「豚丼」です。甘辛く味付けされた豚肉とトロトロの半熟玉子は相性抜群！目と香りから食欲をそそられます。豚丼人気の秘密はもうひとつ、半分サイズの「ミニ豚丼」があることです。全部は食べきれないという女子のみなさんに人気のよう。今回、とてもお腹が空



粉クリのパン。

これはほんの一部で本当はもっとたくさんのパンが。写真だけでもお腹が空いてきますね。



3食の豚丼(左)とミニ豚丼(右)
これにお味噌汁がついて400円と250円。みなさんの頃にも、こんなメニューがありましたか？

いていた私は思い切って豚丼に挑戦。うん、美味しい！でも…やっぱり私はミニの方が良さそうです。しかしこのミニ豚丼、以前は「子豚丼」という名前だったはず。いつの間にか変わったのでしょうか。個人的には子豚のほうが可愛くて気に入ってます。

今年度、3学には新たに第3エリア売店（丸善のコンビニ）が出来ました。元は学生控室だったところをリニューアルして作られたようです。普通のコンビニと何ら変わるところはなく、その上レジにて5%OFF！学生のお財布にとっても優しいコンビニです。すぐそばには常陽銀行のATMがありますが、私としてはゆうちょ銀行のATMが来てほしいところ。これがあったら完璧なのになぁ…。だんだんと快適になるキャンパスライフ、いつかは私の願いが叶うことを思いながら、3学を後にしました。



丸善のコンビニ。

まだあまり知られていないのか、ちょっと静かな店内。でもすぐに学生で溢れそうですね。

（人文・文化学群 日本語・日本文化学類 亀川かすみ）

② 大学入学最初の宴、新入生歓迎祭！



桜が丁度見頃を迎えんとする筑波大学に、今年も実に多くの新入生が入学してきました。入学式を終えたばかりの初々しい彼らが最初に目の当たりにする大学カルチャーショック、新入生歓迎祭（新歓祭）がスタートされました！

新歓祭とは簡単にいえば入学式の直後から行われる、新筑波大生に向けた課外活動団体のアピール合戦です。サークル活動をしていた方も、そうでない方も、記憶には残っているのではないのでしょうか？大学に来て初めて『大学』がどのような雰囲気のある場であるかを感じられる行事である気がします。筑波大学の課外活動団体はいまや130もあり、どの部活やサークルも新入生に入ってもらおうべく、しのぎを削っています。

新歓祭本祭は入学式当日だけではなく、4、5月中はずっと新歓祭が続いており、多くの団体が放課後に何らかの企画を予定しています。夕食はどこかの先輩たちがおごってくれるので、僕が新入生の時は4月中に自炊した記憶は全くありません。新入生には嬉しいですが先輩となった今ではとても複雑な気持ちです…



▲ 平砂宿舎前、新歓祭の様子

とはいえ、新しい誰かと出会うことはやはり楽しいですし、何にも変えがたいつながりを得られることも確かですね。特に筑波大学は大規模な総合大学であるので、授業では会うことのない仲間たちから様々な考え、価値観を学ぶこともできます。

新歓祭は雙峰祭や宿舎祭など、全ての行事に力を注ぐ筑波大生を象徴する行事の一つです。今の新歓祭への尽力もまた、いつか気心の知れた友人と会った際に、良い酒の肴になることを期待しています（笑）

（人文・文化学群 日本語・日本文化学類 馬場一将）

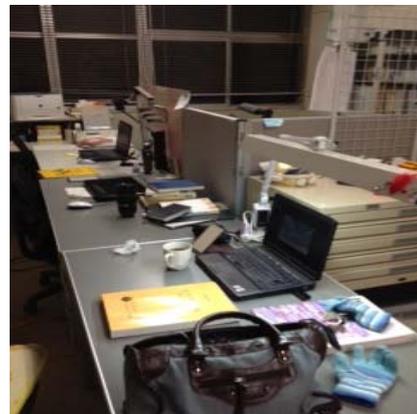
◎3 新入生の大学院生の生活



もともと、1年間の始まりは1月だと思っていた私は、日本に来てから4月に変わったと感じています。しかも、私は、4月の筑波大学がとても好きです。桜が咲いている筑波大学のキャンパスの美しさは私の心の底まで届けると思います。今年の4月は私にとって、特別な時期だと思えます。それはやっと、研究生¹ではなくて、筑波大学の新生として、この大学に通うようになったからです。

私はこれからの大学院生の生活に対して、心配の気持ちというよりも、覚悟しながらチャレンジの気持ちがあると思えます。大学院生は自分の学業だけを努力することではなく、所属している研究室の仕事も工夫しないといけないと感じました。それは大学院生の生活が基本的に研究室の生活だと思えます。私にとって、研究室は超ミニの会社です。先輩たちの経験を聞いて、この超ミニ会社を運営することがそんなに簡単ではないそうです。でも、その大変そうな仕事は新生の私にとってまだまだ早いです。

それよりも、私は私が所属している研究室のことを紹介したいです。現在は研究室に私を入れて、8人の大学院生がいます。この研究室のメンバーはとてもすごいですよ。8人の中に、7人は留学生です。しかも、みんなが中国からの留学生です。なので、研究室にいる時、どうしても日本にいると感じていません。で



も、先輩たちがこんな状況をよくわかるので、特別なルールを作りました。それはお互いに日本語で話すことです。私たちの留学生はよりよい日本語の学習雰囲気を作るために、とても頑張っています。それにしても、日本にいる中国人同士が日本語らしくない日本語を使って、お互いに話すのが、何か微妙な雰囲気だと感じています。

確かに日本語能力を高めることに対して、私の研究室が積極的ではないです。しかし、私はこの特別な研究室の中に、特別

な学生ではないです。みんなと同じ国から筑波大学に留学して
くるからです。私は経験したつらい留学生生活をみんなも経験
したので、もう一人ではないと思いながら、これからの大学院
生の生活を悔いがないように、過ごしたいと思います。

(人間総合科学研究科 教育学専攻 于淼)

-
1. 研究生：ここでは外国人研究生。特定の研究分野について指
導教員の下で研究を行う学生。日本語能力が必須な点や単位
や学位修得ができない点で学群生・大学院生・留学生などと
は異なる。詳しくは [こちら](#)。

◎4 ゆるっとつくば～癒され手帖～

みなさん、こんにちは。つくばにも、ようやく、南風が吹くようになりました。この季節の風物詩といえば、そうです、きらっきらな新入生たちのやる気、によって発生致します、自転車の、大渋滞ですね。ああ、うぜえ、ですね、どうせ、皆、自転車、一度は盗まれるんでしょうね（私は、4回）。私のような腑抜けは、「今日も、大学、混んでそうだな、家で寝てよ。」といった感じで、言い訳づくりも多いに捲る、季節はすっかり春なのです。



と、言いつつも、やっぱり学校が好きな私は、こうして、ぼんやり余所見をしながら、心癒されていくのですけれど。そんなこと言ってるうちに、終わるんだわ、春、綺麗な桜は、とっくに散ってごみになったよ。

（人文・文化学群 日本語・日本文化学類 小林加奈）

5 激変!!新生活ビフォーアフター

新年度が始まって早1ヶ月半…新生活が始まったみなさまもそろそろ慣れてきた頃でしょうか。先日友人と会ったときに、新入生は若い！という話で盛り上がった3年生の私です。生活に慣れてくるとだんだん手抜きが増えてくるよね、なんて話に思わずうなずいてしまいます。うんうん。確かに。あれ、でも、どれだけ生活ぶりが変わったんだろう？本当に手抜きになったのかな？ということで、新生活が始まった2年前の4月の食事とだいぶ生活に慣れた1年前の4月の食事のビフォー・アフターを追ってみることにしました！

さてさて。まずは1年生の時です。

2010年4月26日（1年生）

朝食 ご飯、味噌汁、残り物の鮭豆腐ハンバーグ

昼食 本日のドリア（3食にて）

夕食 ご飯、味噌汁、餃子、鶏肉とほうれん草の卵とじ

うわああ…なんというか、充実しています。しかもおやつまで自分で作るという徹底ぶり。手間をかけて頑張っているなあと我ながら感心です。今では餃子やハンバーグなど面倒なものはあまり作らなくなっていました。作ったとしても大量生産して冷凍し、食事を作りたくない時用の非常食にするという具合です。この食事が1年後にはいったいどうなるのでしょうか。



左側：1年生時昼食（上）、夕食（下）

右側：2年生時昼食（上）、夕食（下）

2011年4月19日（2年生）

朝食 お弁当の残り

昼食 お弁当（炊き込みご飯、ウィンナーとほうれん草の炒め物、卵焼き、ハンバーグ、ミニトマト）

夕食 ドライカレー、温泉卵

おおう…退化しています。品数も手間も…。他の皆さまもこんな変化を経験されたのでしょうか。。。お弁当は手間をかけているように見えて、時間があるときに大量生産→冷凍→お弁当の時に解凍というプロセスなので意外と楽です。とはいえ、ストックなのでたいていいつも同じメニューになってしまいます。さらに冬場は朝起きられなくてお弁当自体最初から諦めます。ドライカレーは簡単でおいしいです。温泉卵は乗せ方が雑だったので割れてしまいました…残念。おやつは気が向けば手作りしますが、誘惑に負けてチョコレートやアイスが冷蔵庫に鎮座するように…うーん。やっぱり生活の質が落ちている…？いやいやいや！そんなことはない！これは慣れだ！そう信じます。何か名誉挽回できるような要素…要素は…。そうです！1年を経た後の方が節約になっているかもしれません！ちょっと概算してみました。

1年生：朝食¥40＋昼食¥500＋夕食¥150＝¥690

2年生：朝食¥40＋昼食¥50＋夕食¥80＝¥170

食事だけ見ればかなりの節約です。やったー！とはいえ、お菓子を買ってしまう等いらぬ所にお金を使うようになってしまったのも事実。それを考慮すれば、どっこいどっこいでしょうか…。いつも変らぬクオリティを保って食事を作る母を改めて尊敬してしまいます。せつかく振り返ったのだから、私も初心に戻って張りのある充実した生活を今からでもまた目指したいと思います！とりあえず、目の前にあるポテチを片づけることから始めよう…。

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 野川佳奈代)

◎6 ペデあぶろーど



ペデあぶろーど第二弾の今回は、日本語・日本文化学類の「国際実地研修」という日本語教育の実習でロシアに行っただけではありません。実習を行ったのはモスクワの日本語専攻のある大学です。実は昨年9月にも国際交流の実習で訪れていたのです、2回目のロシアです。ロシアの友達と過ごす楽しい2週間・・・と、思いきや実習なので遊ぶ時間はありません。実習準備に追われて、友達と遊べるのは最後の3日間くらいです。実習内容は大学でロシア人に日本語の授業を行う実践的なものです。実はたくさん失敗したのであまり思い出したくありません・・・笑

飛行機からみた3月のロシアは、一面の白銀の世界！滞在した3月10日～3月24日の2週間、だいたい気温はマイナスです。到着した翌日にはあまりの寒さにロシアンな帽子を買ってしまいました。日本でいつ使えばいいのやら・・・

4日目、過酷な実習の幕開けとともに、見事に風邪をひいてしまいました。一緒に来たたった1人の相方もばっちり風邪をひいた様子。とにかく悪寒を気のせいだと自分に言い聞かせ「何か消化のいいものを」と考えてスーパーで買ったカーシャというロシアのおかゆ（イチゴ味）。食べてみると、う～ん。2分の1でギブアップ。カーシャはロシアではとってもポピュラーな食べ物なのですが、甘いお米はちょっと不思議・・・。ロシアにも「病は気から」と似ている「病は頭からくる」ということわざがあるようです。ひたすら元気にふるまっていると、自己暗示のおかげか、カーシャのおかげか、2日程度で風邪は治りました。

モスクワは地下鉄がとても発達しています。私たちも2週間の移動手段に地下鉄は欠かせない存在です。基本的に朝は日本と同じくらいの満員電車。しかし、人が乗り込んでいてもアナウンスも何もなく、ドアが問答無用でピシャン！とものすごい勢いで閉まるところは日本とロシアの大きな違いです。2週間でロシア流にも少し慣れ、強くなった気がします。ロシアの地下鉄では座っている人の前に自分よりも年上の方が前に来ると、無言でさっと席を譲る光景がよく目に留まります。とても素敵ですよ。

大変だった実習は息つく暇もなくあっという間に終わり、気付けばロシア滞在最後の日。仲の良いメンバーで夕ご飯を食べ

に行き、そのあと地下鉄でイズマイロフスカヤ駅に行きました。ロシアではめったに地上に出ない地下鉄の窓が急に明るくなり、外の景色が現れるととても感動します。駅を出るとそこは大きな森の公園の入り口です。雪に包まれた森の景色は緊張感のある美しさ。その中を4人のロシア人と2人の日本人で話したり歌ったりしながら歩きました。一周してしまうと、来た道をまた引き返しました。あたりはだんだん夕暮れになり8時を過ぎるとすっかり夜になりました。4人は誰もそんなことを口にはしないけれど、私たちと別れるのがさみしくて、最初の入り口には着かないようにできる限りの遠回りをして、みんなであれこれおしゃべりしながら、最後には道になっていないようなところまで歩きました。とても愉快だったけれど、ちょっと切なくて、忘れられない思い出になりました。



(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 関崎美久)

1. モスクワの朝
2. イチゴ味のおかゆ「カーシャ」
3. イズマイロフスカヤ駅
4. みんなで歩いた公園

